

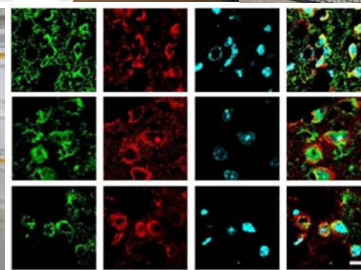
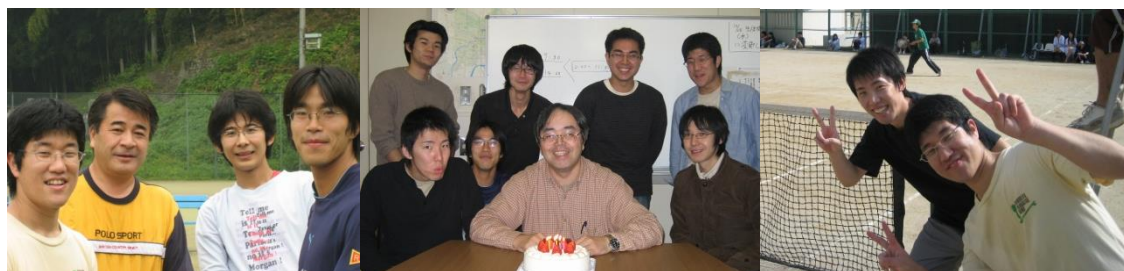
岐阜薬科大学薬効解析学研究室  
～10周年（2004～2014）記念誌～



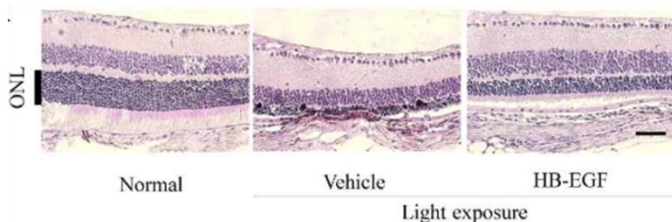
# 薬効解析学研究室の歩み

すべての方に **感謝**

そして **夢** に向かって

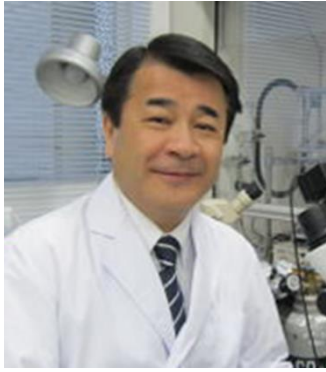


Scientific Reports, 3: 3177, 2013.



Invest. Ophthalmol. Vis. Sci., 54, 3815-3829, 2013.





## 10年間を振り返って

岐阜薬科大学薬効解析学

教授 原 英彰

2004年（平成16年）にご縁を頂き、製薬企業から岐阜薬科大学に赴任してまいりました。最初の3年間はアピ株式会社の寄付講座である生体機能分子講座を担当させて頂きました。教授室と実験設備のない研究室が一部屋で、まさにゼロからの出発でした。学生及びスタッフも最初はなく、これからどんなテーマを行うか？何を目指すか？を朝から晩まで教授室で論文を読みながら考えていました。期限は5年間でしたが、その先のことは考えられず、如何に成果を出すか！ただそれだけでした。しかし、その当時はこの時間が至福の時で、色々なアイデアが浮かび、夢に溢れていました。

その年の6月頃、種田靖久君（修士1年）、守本亘孝君および井口勇太君（学部4回生）が加わり、7月からは嶋澤雅光先生が製薬企業から来てくれました。その後、事務担当の岩田さん、鶴間一寛先生が加わり、岐阜大学医学部脳神経外科、同神経内科、同眼科、その他多くの企業から、研究生・研究員が来てくれました。1年毎に研究室の人数4名→7名そして現在は39名にもなりました。研究室員が増えても、一人一人をしっかりと見つめて指導していきたいと思えます。

研究室を立ち上げた時に、研究室理念を作成しました。

1) 十分な治療薬がない疾患で苦しんでおられる患者の方々の QOL 向上に貢献する薬剤の開発につながる研究、2) 国内外の産学官の積極的な連携、3) 実践教育を行う（卒業後実社会で働くことを前提に、そこで必要な社会常識、礼儀、挨拶、コミュニケーションのとり方などを教育する）。

さらにその後、研究室ビジョンも設定しました。1) 医療に貢献できる医薬品研究開発研究者、医薬品製造販売に関わる企業人、薬剤師、医療従事者、医療行政従事者などを目指した学生を育成する。2) グローバルで活躍できる医療分野のリーダーを育成する。3) 産官学連携による新規医薬品創出へ貢献する。4) 産官学連携による既存医薬品や健康補助食品の価値創出へ貢献する。今後もこれらの研究室の理念とビジョンを基軸として、学生の教育と研究に邁進していく所存です。

これまで多くの方々からのご指導・ご支援があったからこそ、今があります。このご恩を忘れることなく、研究室を立ち上げた時の気持ちを忘れず、前に進んでいきたいと思えます。

この度、これまでの皆様への10年間のお礼を込めて業績集を作成しました。どうぞご査収下さい。今後とも引き続きご指導、ご鞭撻の程、お願い申し上げます。

最後に皆様の益々のご健勝とご健康をお祈り申し上げ、挨拶とさせていただきます。